

2012（平成24）年度 東京大学 入試問題 第1問 解答例

- 一 近代科学の自然観では、実在する自然は客観的な物理学的世界であり、感性的な知覚世界は主観的表象とみなすということ。
- 二 二元論的な認識論では、詩人が賛美する感性的な自然の意味や価値は、客観的自然ではなく、主体によって与えられるから。
- 三 近代科学の知的・実践的態度は、自然を分解して利用する点で、自然をかみ砕いて栄養として摂取することに類似しているから。
- 四 近代社会の想定する個性差を無視した標準的人間像では、少数者は社会の基本的制度から排除され、不利となるということ。
- 五 近代科学の二元論的自然観は、自然の感性的性格を主観的表象とし、物理学的な客観的世界を自然の真の実在と見て、その分析と利用を推進する背景となった。その結果、全体論的存在である生態系の個性、歴史性、場所性が無視され、環境問題に至ったということ。（一二〇字）
- 六 a 枯渇 b 効率 c 秩序 d 浸透 e 交換